



家相シミュレーション編

家相シミュレーションでは、プランの検討段階で、家相の良い家かどうかをチェックできます。チェック結果は図面や表で確認でき、家相にこだわるお施主様への提案に効果的です。

本マニュアルは、ARCHITREND ZERO 2015 で制作しています。
お使いのプログラムと一部画面と操作が異なる場合があります。

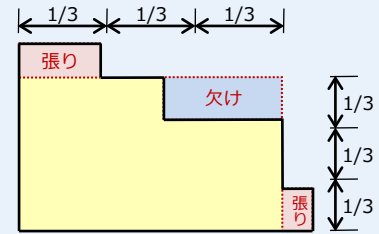
[補足] 家相の用語について _____	2
1 基本情報を設定する _____	3
家相チェックを開く _____	3
判定タイプを確認する _____	4
磁北・家の中心の設定を確認する _____	5
[補足] 判定タイプを追加について _____	6
2 家の中心と火気・水まわりを入力する _____	7
家相方位盤を配置する _____	7
[補足] 二世帯住宅や集合住宅の家相チェックについて _____	8
[補足] 家相方位を確認しながら間取りを入力するについて _____	9
火気・水まわりを入力する _____	10
3 家相をチェックする _____	11
チェックを実行する _____	11
判定表を作成する _____	12
方位盤付き平面図を作成する _____	12
[補足] 判定表を図面と一緒に印刷するについて _____	13
[補足] 家相方位盤付き鳥瞰パースを作成するについて _____	13
4 プランの変更例 _____	14

【補足】家相の用語について

家相建築で使用される基本的な用語について説明します。

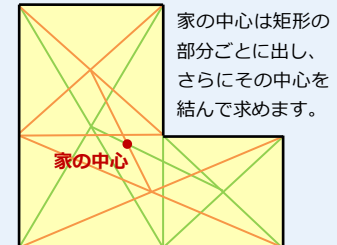
● 家の構え

家相の良い家の基本は長方形です。シンプルな四角形が最も無難で、凹凸の多い建物ほど良くありません。一辺の3分の1までの出っ張りや吉相の「張り」とし、それ以外の引っ込みは凶相の「欠け」となります。リフォームの際には、「欠け」の部分にサンルームなどを設けて欠けを無くすようにしてください。



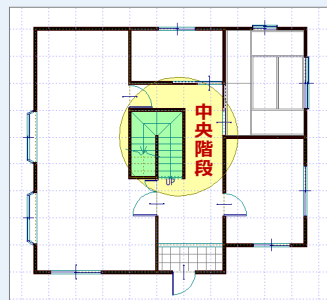
● 家の中心

家相を正確に判断する為には、「家の中心」の位置が重要です。家相学上、家の中心は建物の重心を指します。1階を基本とし、上階の家相も1階の中心で判断します。二世帯住宅で階ごとに住み分ける場合などには、中心を各階で求めます。玄関ポーチ、出窓、ウッドデッキ、バルコニーなどは建物に含めません。地袋付きの出窓、サンルームや風除室は含めます。

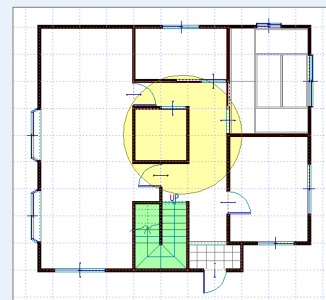


● 家の中央部

家の中心から半径2m以内の領域を「家の中央部」と呼びます。人間の体に例えると背骨にあたる重要な部分です。「階段」「吹抜」「火気・水まわり」を配置しないようにします。家が大きくなると、中央部の半径も大きくなります。家が小さい場合も最低1mは必要です。



中央階段とは、家の中心から半径2m以内の範囲にあるものを指します。



なるべく部屋をつぶさず、屋根の形も変えないで変更します。

● 磁北

家相を正確に判断する為には、「磁北」が重要です。基準となる北には、地図上の北である「真北」と、方位磁石で測った北である「磁北」がありますが、家相では「磁北」を使用します。「磁北」は真北より西側に数度ずれており、地域によって値が違います。磁北の測量をするか、国土地理院のホームページで確認して正しい磁北を求めましょう。

● 鬼門

北東の「表鬼門」、南西の「裏鬼門」があります。誰に対しても危険な方位です。「玄関」や「火気・水まわり」を配置しないようにします。また建物の構えの「張り」や「欠け」を設けないように注意してください。

● 十二支方位

家相建築の考えでは、住む人の十二支（干支）の方位にも注意しています。家族の十二支方位に、「玄関」や「火気・水まわり」があると、その干支をもつ家族にアクシデントが起きてしまいます。

● 不浄物

家相では、「火気」「水まわり」を不浄物として扱い、凶方位に配置しないよう注意します。

● 火気

ガスレンジ、IH キッチンヒーター、給湯器、ボイラー、薪ストーブ、暖炉などです。火気と水まわりでは、火気の方が危険度は高いと考えます。裸火を扱うものが最も注意の必要なものです。

● 水まわり

トイレ、浴槽、キッチンシンク、浄化槽、排水管などです。水の流れが滞り、排せつ物などが溜まる場所をいいます。ただし、洗濯機や洗面台、掃除用流し、散水用のボックス水洗や立ち上がり水洗、点検用の汚水桝などの方位については、特に考慮する必要はありません。

1

基本情報を設定する

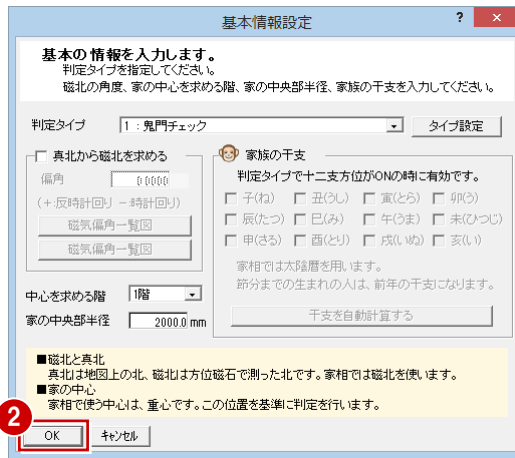
平面図から家相チェックを開いて、判定に必要な基本情報を設定しましょう。

家相チェックを開く

- 1 [チェック] メニューから [家相チェック] を選びます。
[基本情報設定] ダイアログが開きます。
- 2 [OK] をクリックして画面を閉じます。
平面図の左側に [家相] ウィンドウが表示されます。



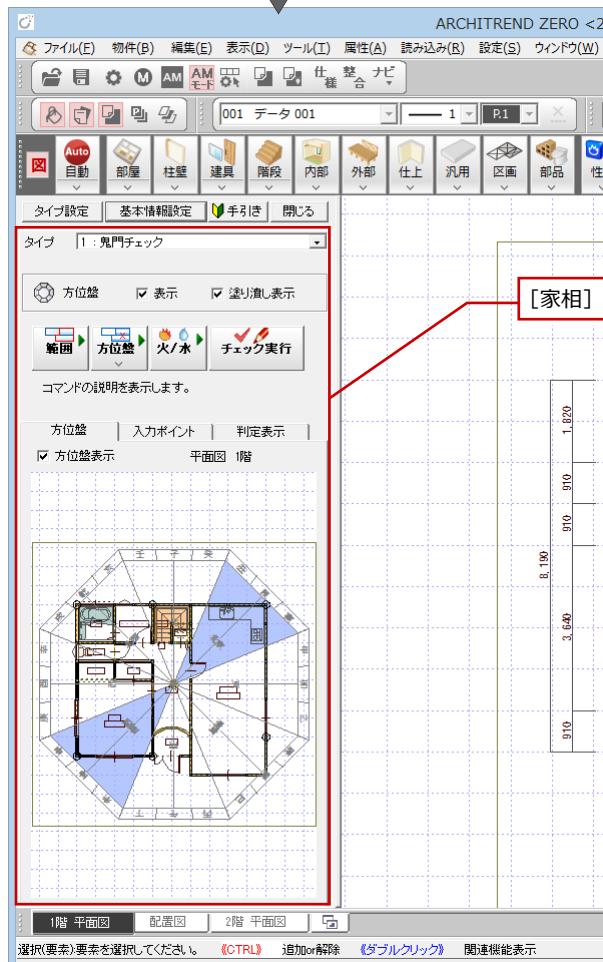
[基本情報設定] ダイアログについて
 新しい物件で、初めて家相チェックを開くときのみ自動で [基本情報設定] ダイアログが表示されます。次回からは [家相] ウィンドウの [基本情報設定] で開くことができます。
 ※ 本書では自動で表示されたダイアログはそのまま閉じて、[家相] ウィンドウからダイアログを開いて、家の基本情報を設定する手順で解説しています。



[家相] ウィンドウ上部の機能について

手引き	ヘルプを表示します。 [家相] ウィンドウを閉じます。
閉じる	[チェック] メニューから [家相チェック] を選ぶのと同じ機能です。

※ その他の機能は次頁以降で紹介しています。



判定タイプを確認する

家相シミュレーションには、あらかじめ3つの判定タイプが用意されています。

まず、各タイプがどのような判定条件になっているかを確認します。

① [家相] ウィンドウの [タイプ設定] をクリックします。

[判定タイプ設定]ダイアログが開きます。

② 「1：鬼門チェック」の判定条件、チェック箇所を確認します。

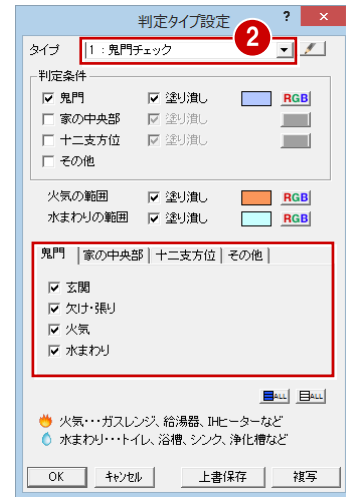
③ [タイプ] を「2：基本チェック」に切り替えて、判定条件、チェック箇所を確認します。

④ [タイプ] を「3：詳細チェック」に切り替えて、判定条件、チェック箇所を確認します。

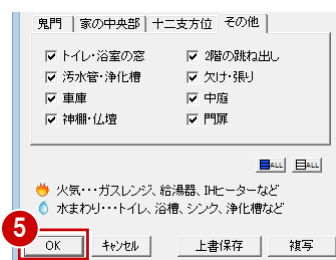
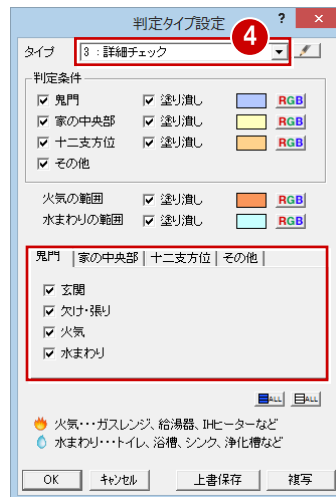
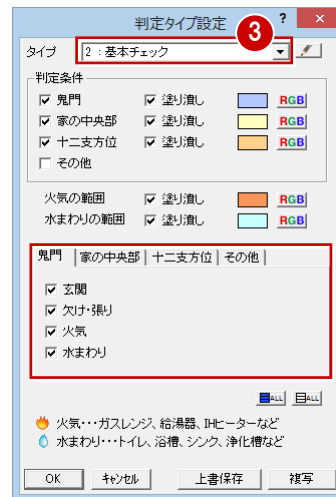
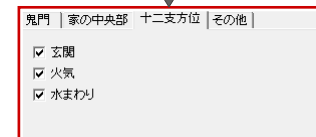
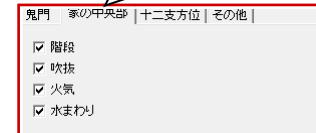
⑤ [OK] をクリックします。

※ 判定タイプの条件やチェック箇所を変更するには、そのチェックのオンまたはオフにして [OK] をクリックします。

⇒ 判定タイプの追加については、P.6 参照



タブを切り替えて
チェック箇所を確認

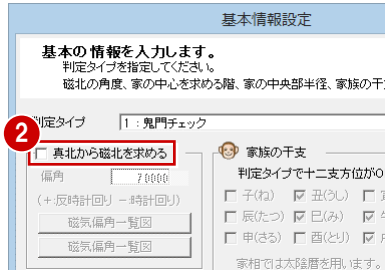


磁北・家の中心の設定を確認する

方位には地図上の北を指す真北と、方位磁石で測った磁北があり、家相では磁北を使います。また、家相では家の重心を基準に判定を行います。

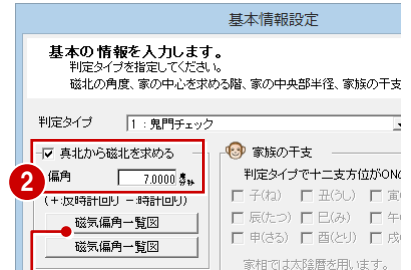
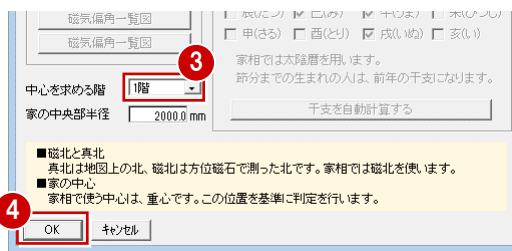
家相シミュレーションでは、[基本情報設定]ダイアログで磁北や家の中心に関する設定を行います。

- 1 [家相] ウィンドウの [基本情報設定] をクリックします。
[基本情報設定] ダイアログが開きます。
- 2 配置図（または平面図）に入力されている方位マークが磁北か真北かによって、[真北から磁北を求め]を以下のように設定します。
方位マークが磁北を指している場合は、[真北から磁北を求め]のチェックをはずします。真北を指している場合は、チェックを付けて偏角を入力して磁北を求めます。
- 3 [中心を求め]が「1階」であることを確認します。
二世帯住宅や集合住宅などで、チェックする対象が2階の場合は、[中心を求め]を「2階」に変更します。
- 4 [OK] をクリックします。



方位マークが未入力の場合

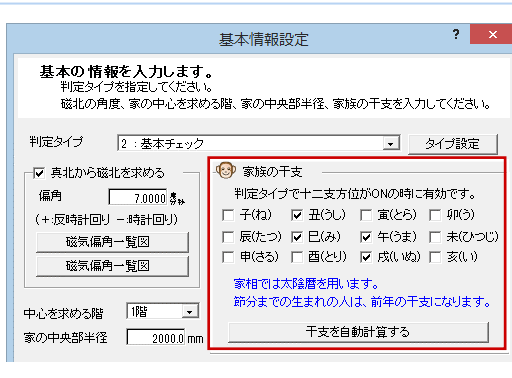
[真北から磁北を求め] OFF：図面上の上方方向を磁北とみなします。
[真北から磁北を求め] ON：図面上の上方方向を真北とみなして、偏角分が補正されます。



地域の磁気偏角がわからない場合は、このボタンでインターネット上の国土地理院のサイトを確認できます。

「家の中央部」を判定する場合は
「家の中心部」を判定する場合は、[家の中央部半径]を設定しておきます。家相チェックではこの範囲を家の中心部とみなして、判定が行われます。
一般的な住宅で使用する家相方位盤の中心円は、半径2mとされています。規模の大きな住宅の場合は、中心円を大きくする必要があります。家が小さい場合も、最低1mは必要です。

「十二支方位」を判定する場合は
「十二支方位」を判定する場合は、[タイプ]を「2：基本チェック」などに切り替えて、家族の干支にチェックを付けておきます。干支がわからない場合は「干支を自動計算する」を利用して、生年月日から干支を計算することもできます。

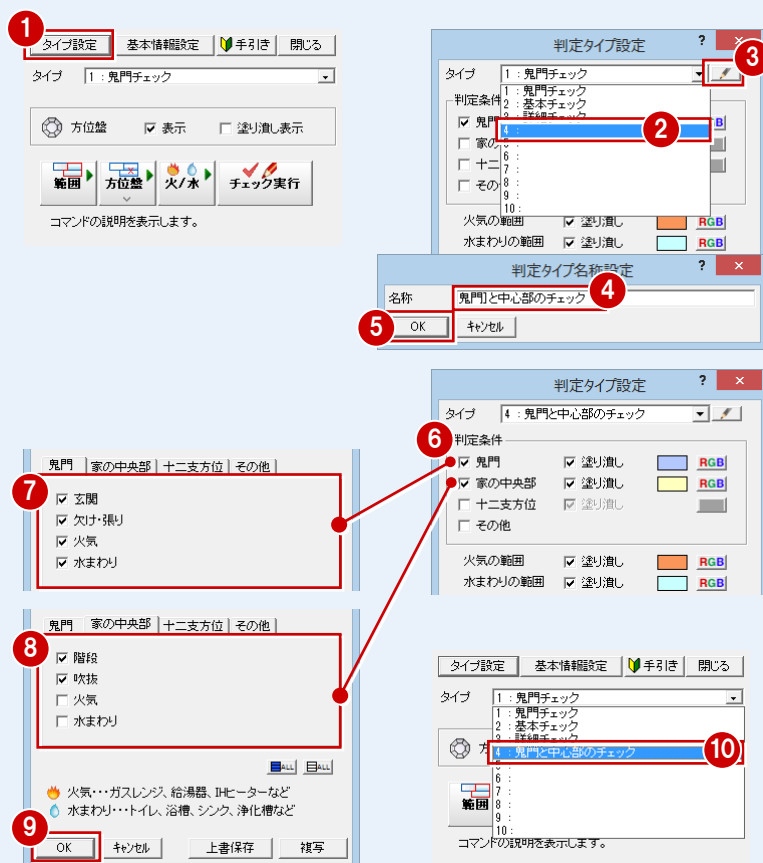


【補足】判定タイプの追加について

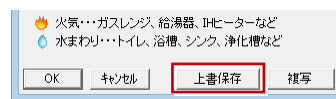
オリジナルの判定タイプを追加するには、[判定タイプ設定] ダイアログで以下のように操作します。

新しいタイプを追加する

- 1 [家相] ウィンドウの [タイプ設定] をクリックします。
[判定タイプ設定]ダイアログが開きます。
- 2 [タイプ] ボックスをクリックし、一覧から空欄を選びます。
- 3 [名称設定] をクリックします。
- 4 [名称] ボックスに判定タイプの名称を入力します。
- 5 [OK] をクリックします。
- 6 [判定条件] を選択します。
ここでは [鬼門] と [家の中央部] にチェックを付けます。
- 7 [鬼門] タブでチェック箇所を選択します。
- 8 [家の中央部] タブでチェック箇所を選択します。
- 9 [OK] をクリックします。
- 10 [家相] ウィンドウの [タイプ] 一覧に、新しいタイプが追加されていることを確認します。



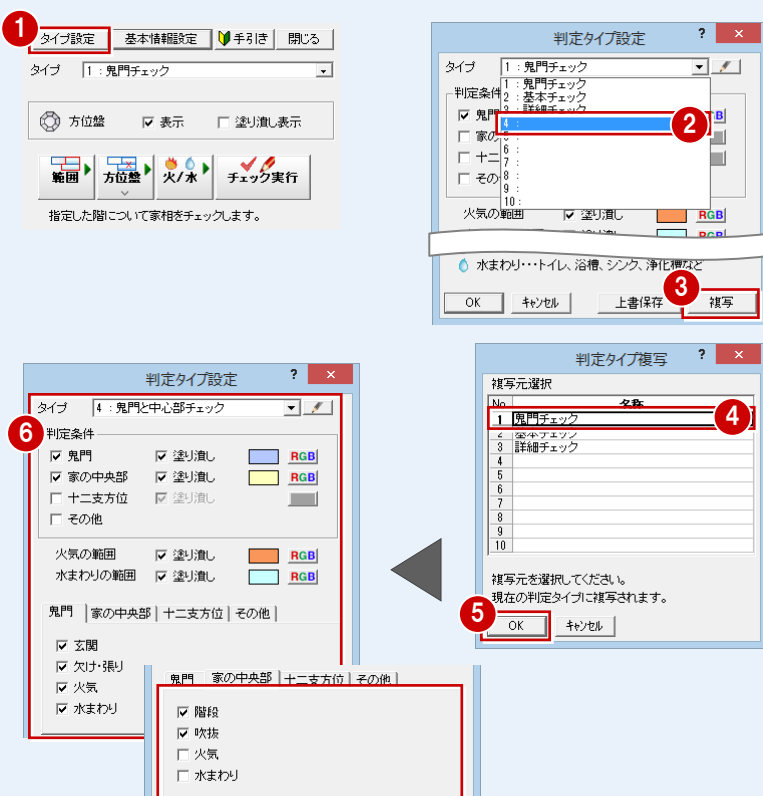
変更した内容を途中で更新する場合は、[上書保存] をクリックします。
[OK] をクリックすると、変更した内容を保存して画面が閉じます。



既存のタイプを利用するには

登録済みのチェック内容を利用して、新しいタイプを追加することもできます。

- 1 [家相] ウィンドウの [タイプ設定] をクリックします。
- 2 [タイプ] をクリックし、一覧から空欄を選びます。
- 3 [複写] をクリックします。
- 4 [判定タイプ複写] ダイアログが開きますので、複写元をクリックします。
- 5 [OK] をクリックします。
- 6 タイプ名称と判定条件、チェック箇所などを設定します。
操作手順は「新しいタイプを追加する」の3～10を参照してください。

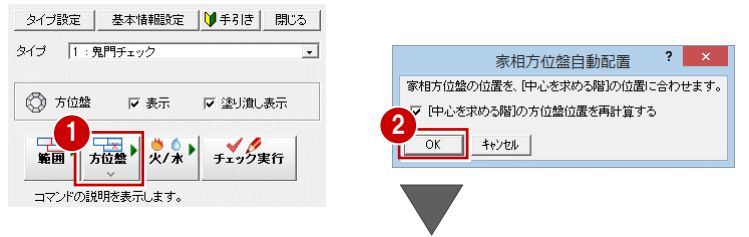


2 家の中心と火気・水まわりを入力する

家相方位盤を配置して、家相チェックに必要な火気と水まわりを入力しましょう。

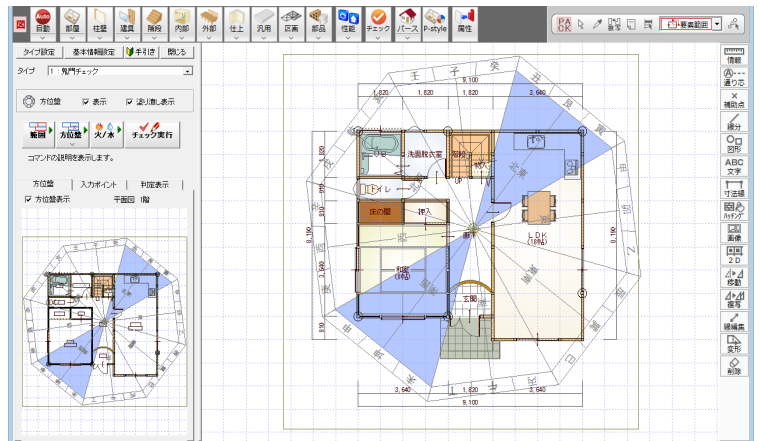
家相方位盤を配置する

- 1 [方位盤] をクリックします。
[家相方位盤自動配置] ダイアログが開きます。
- 2 [OK] をクリックします。
家相方位盤が配置されます。



家相方位盤の中心点について

[基本情報設定] ダイアログの [中心を定める階] で指定した階の平面図より重心を計算し、重心を基準に家相方位盤が配置されます。また、他階も同じ位置に家相方位盤が配置されます。



家相方位盤を自由に配置するには

家相方位盤を任意の場所に配置するには、[方位盤] メニューから [家相方位盤入力] を選びます。



方位盤の大きさを指定したい場合は、[半径を自動計算する] のチェックをはずして、[半径] を入力して、方位盤の中心位置をクリックします。

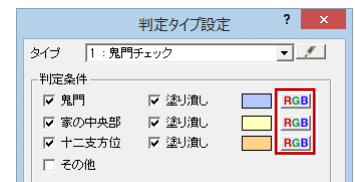


家相方位盤の表示・塗りつぶし色を変更するには

家相方位盤で図面が見づらい場合は、[方位盤] グループの [表示] のチェックをはずして非表示にします。方位盤の鬼門、家の中心などをハッチング表示するには、[塗り潰し表示] のチェックをはずします。

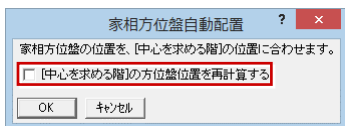


また、家相方位盤の塗りつぶし色を変更するには、[タイプ設定] をクリックして、[判定タイプ設定] ダイアログの RGB で色を変更後、家相方位盤を再配置します。



家相方位盤の位置を変えたくない場合は

家相方位盤を再配置する場合に、中心位置を変えたくない場合は、[家相方位盤自動配置] をクリックして、[家相方位盤自動配置] ダイアログの [[中心を定める階] の方位盤位置を再計算する] のチェックをはずして再配置します。



家相方位盤を削除するには

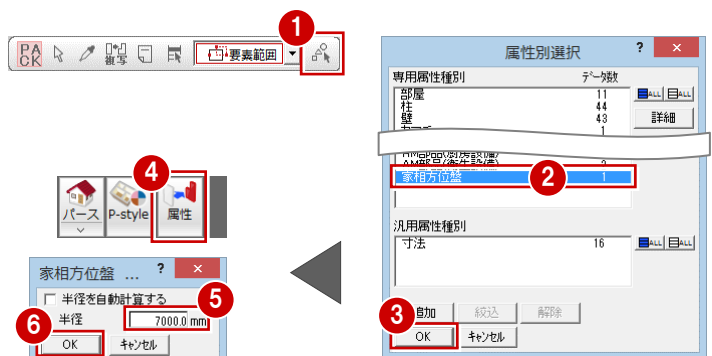
家相方位盤を削除するには、[属性別選択] を使用して「家相方位盤」を選択後、[削除] をクリックします。

※ 1 ~ 3 は右図参照



家相方位盤の大きさを変更するには

家相方位盤の大きさを変更するには、[属性別選択] を使用して「家相方位盤」を選択後、[属性変更] をクリックします。[家相方位盤] ダイアログの [半径] ボックスに方位盤の半径を入力して、家相方位盤の大きさを変更します。



【補足】二世帯住宅や集合住宅の家相チェックについて

二世帯住宅や集合住宅の家相チェックは、対象となる住居区分をチェックする必要があるため、以下のようにチェック範囲を入力してから家相方位盤を配置します。

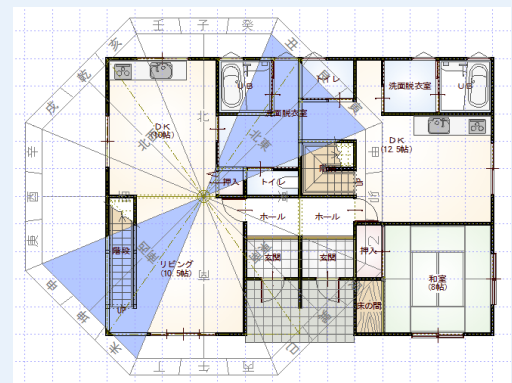
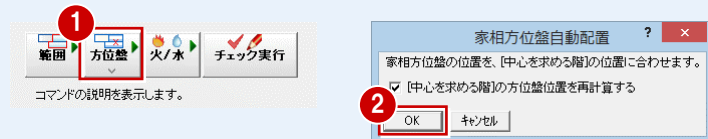
チェック範囲を入力する

- 1 [家相] ウィンドウの [チェック範囲入力] をクリックします。
- 2 対象となる範囲を入力します。



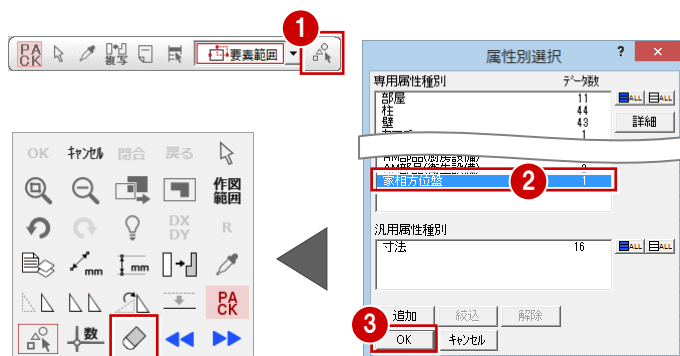
家相方位盤を配置する

- 1 [家相方位盤自動配置] をクリックします。
[家相方位盤自動配置] ダイアログが開きます。
- 2 [OK] をクリックします。
入力したチェック範囲から中心点が算出され、家相方位盤が配置されます。



チェック範囲を削除するには

チェック範囲を削除するには、[属性別選択] を使用して「家相範囲指定」を選択後、削除します。

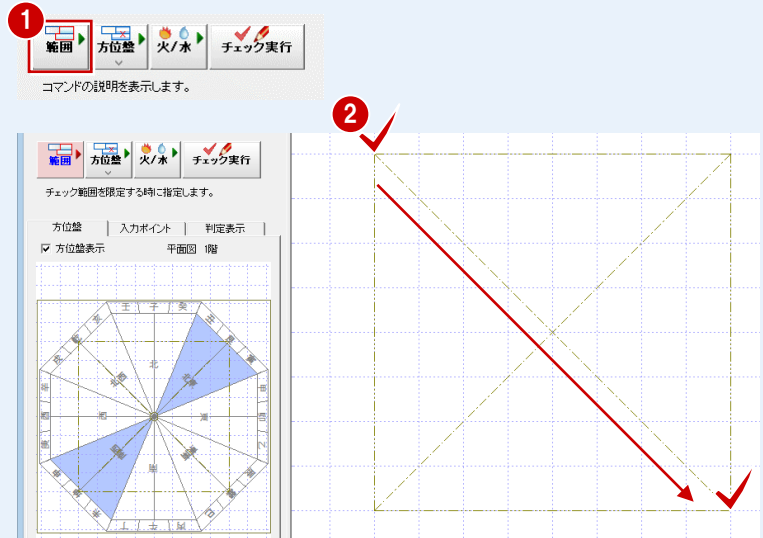


【補足】家相方位を確認しながら間取りを入力するについて

家相方位を確認しながら間取りを入力するには、新規物件で [家相] ウィンドウを開き、チェック範囲を利用して建物の領域をおおまかに入力してから、家相方位盤を配置し、間取りを入力していきます。

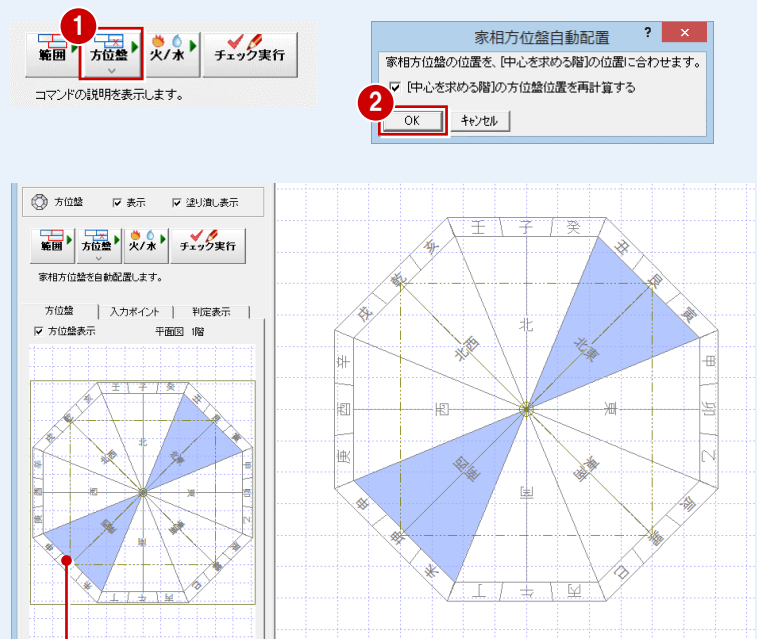
チェック範囲を入力する

- 1 [家相] ウィンドウの [チェック範囲入力] をクリックします。
- 2 建物の領域となる範囲を入力します。



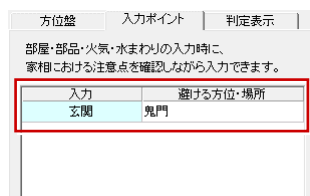
家相方位盤を配置する

- 1 [家相方位盤自動配置] をクリックします。
[家相方位盤自動配置] ダイアログが開きます。
 - 2 [OK] をクリックします。
家相方位盤が配置されます。
- ※ 以降は、家相方位盤を確認しながら、部屋や火気・水まわりに関する部品、玄関建具を入力します。
 - ※ 家相方位盤で入力データが見つからない場合は、[方位盤] グループの [方位盤表示] のチェックをはずして、一時的に方位盤を消して入力するとよいでしょう。



入力ポイントについて

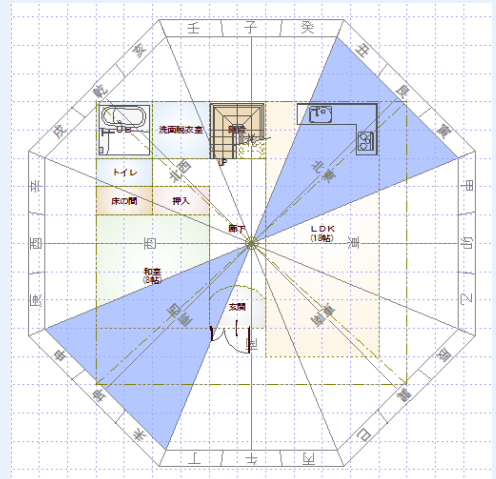
部屋・部品・火気・水まわりを入力する際、[家相] ウィンドウの [入力ポイント] タブを表示しておくこと、避ける方位や場所を確認しながら、各データを入力できます。



部屋・部品・玄関建具が入力できたら

部屋・部品・玄関建具が入力できたら、チェック範囲を削除してから家相方位盤を再配置しましょう。チェック範囲が入力されていると、その範囲を参照して家相方位盤が配置されてしまいますので、注意してください。

⇒ チェック範囲を削除するには、P.8 参照



火気・水まわりを入力する

家相チェックの判定に必要な火気と水まわりの範囲を入力しましょう。
ここでは入力データが見やすいように、あらかじめ家相方位盤を非表示にしておきます。

- ① [方位盤] グループの [表示] のチェックをはずします。
家相方位盤が非表示になります。
- ② [火気・水まわり入力] をクリックします。
[火気・水まわり] ダイアログが開きます。
- ③ 入力方法を [要素指定] にします。
- ④ コンロ部分に火気を入力します。
- ⑤ 同様に、給湯器にも火気を入力します。
- ⑥ [火気・水まわり] ダイアログを [水まわり] に切り替えます。
- ⑦ 浴槽部分に水まわりを入力します。
- ⑧ 同様に、浄化槽、トイレ、シンクに水まわりを入力します。
- ⑨ 入力が終わったら、[方位盤] グループの [表示] のチェックを付けて、家相方位盤を表示させておきます。



火気・水まわりの指定方法

対象		指定方法
火気	ガスレンジ、IH ヒーター	コンロ部分のみ指定します。
	給湯器、ボイラー、薪ストーブ、暖炉など	全体を指定します。
水まわり	トイレ	部屋全体を指定します。
	浴槽	浴槽部分のみ指定します。
	キッチン	シンク部分のみ指定します。
	浄化槽	全体を指定します。
	排水管	指定はしませんが、最短距離で建物の外に出し、玄関の前を横切らないように注意してください。

※ 水まわりのチェック対象に含まれないもの
洗濯機、洗面台、掃除用流し、散水用のボックス水洗、立ち上がり水洗、点検用の汚水樹など

3 家相をチェックする

家相チェックを実行し、判定表や方位盤付き平面図を作成しましょう。

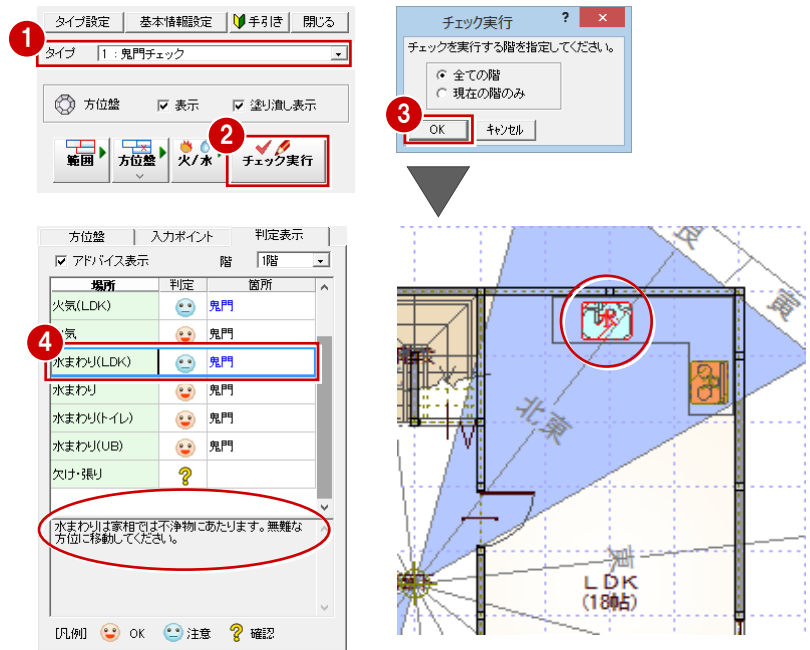
チェックを実行する

- ① [タイプ] で判定タイプを選択します。
- ② [チェック実行] をクリックします。
- ③ チェックの対象階を確認して、[OK] をクリックします。
[判定表示] タブが開き、判定結果が表示されます。
- ④ [判定表示] タブの一覧で各場所の判定結果を確認します。

判定結果の各行をクリックすると、図面上の該当する箇所が選択表示されます。また、[アドバイス表示] が ON のとき、一覧の下部でプラン変更が必要な場所に関するアドバイスを確認できます。

判定結果を確認したら、必要に応じてプランを変更します。

⇒ プランの変更例については、P.14 参照



凡例について

凡例	判定結果
😊	OK です。
😞	プランの変更を行ってください。
❓	アドバイスの内容を確認し、必要に応じてプランの変更を行ってください。

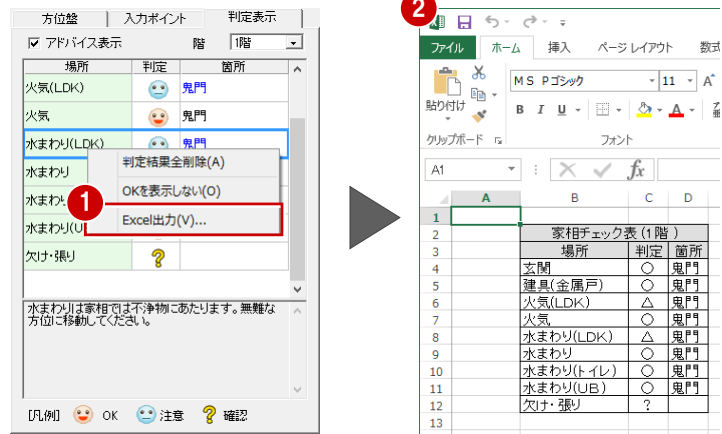
判定基準について

対象		判定基準
部屋	玄関建具	建具長さの 1/3 以上が凶方位にかかっている場合
	玄関	部屋面積の 1/3 以上が凶方位にかかっている場合
	キッチン	部屋面積の 1/4 以上が凶方位にかかっている場合 ※ 入力した火気・水まわりが部屋内にある場合、部屋面積ではなく火気・水まわりの領域でチェックします。
	トイレ	部屋面積の 1/3 以上が凶方位にかかっている場合 ※ 入力した水まわりが部屋内にある場合、部屋面積ではなく水まわりの領域でチェックします。
	浴室	部屋面積の 1/2 以上が凶方位にかかっている場合 ※ 入力した水まわりが部屋内にある場合、部屋面積ではなく水まわりの領域でチェックします。
	階段室	家の中央部に少しでもかかっている場合 ※ 階段シンボルが入力されている場合、部屋ではなく階段シンボルでチェックします。 ※ 階段室に窓があれば、無難な相となります。
	吹抜	部屋面積の 1/3 以上が凶方位にかかっている場合
シンボル	階段 (踊り場)	家の中央部に少しでもかかっている場合 ※ 部屋に窓があれば、無難な相となります。
	火気	凶方位に少しでもかかっている場合
	水まわり	水まわり領域の 1/3 以上が凶方位にかかっている場合

判定表を作成する

この操作を行うには、お使いのコンピュータに Excel がインストールされている必要があります。

- ① 判定結果一覧で右クリックして、メニューから [Excel 出力] を選びます。
- ② Excel が開き、各シートに各階の判定結果が出力されます。

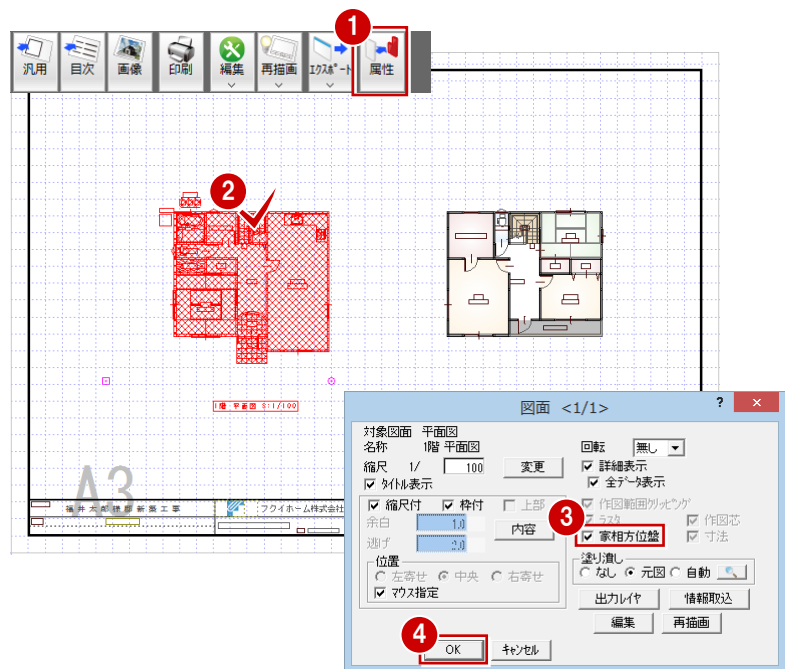


方位盤付き平面図を作成する

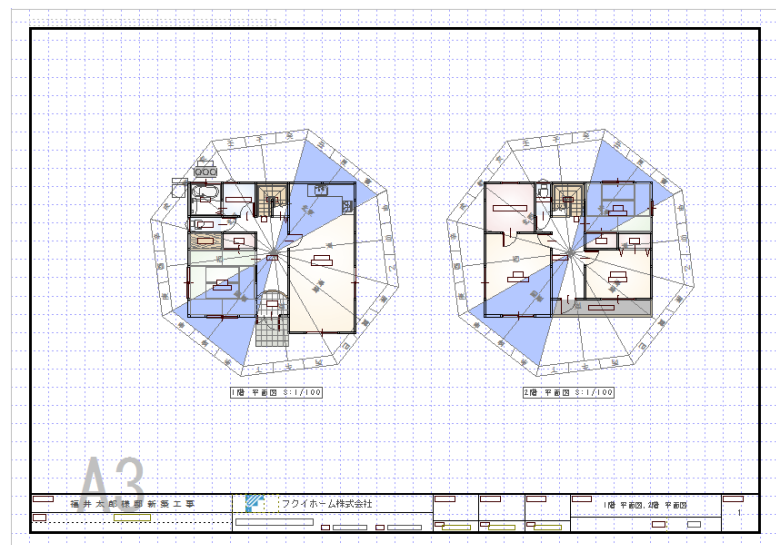
図面印刷で平面図 1・2 階を配置し、判定結果を印刷しましょう。

図面印刷で平面図 1・2 階を配置します。

- ① [属性変更] をクリックします。
- ② 「1 階 平面図」 をクリックします。
[図面] ダイアログが開きます。
- ③ [家相方位盤] にチェックを付けます。
- ④ [OK] をクリックします。
家相方位盤が表示されます。



同様にして「2 階 平面図」にも家相方位盤を表示させます。



【補足】判定表を図面と一緒に印刷するについて

Excel 出力した判定結果を図面印刷で取り込み、家相方位盤を表示させた平面図と一緒に印刷するには、次のように操作します。

1 表入力

2 階のデータを取り込む場合は、[シート名称]を「2階」に変更します。

3 参照

4

5

6

7

8

9

家相チェック表 (1階)	場所	判定	箇所
玄関	○	鬼門	
建具(金戸)	○	鬼門	
火気(LDK)	△	鬼門	

【補足】家相方位盤付き鳥瞰パースを作成するについて

鳥瞰パースに家相方位盤を表示することもできます。家相方位盤付きの鳥瞰パースを作成するには、パースモニタの[専用初期設定 (立体作成条件)]の[作成条件]タブで「家相方位盤」を「○」に変更して立体データを作成します。

【パースモニタ 専用初期設定: 立体作成条件】

作成条件 | 表示設定 |

作成項目

- スラブ
- 吹抜
- 梁
- 土留壁
- 欄干
- トラス
- 屋根
- 太陽光パネル
- 庇
- 付母屋
- 妻壁
- 化粧木口
- 小窓換気口
- 屋根ファン

設定

- AM建具を詳細に作成
- ハッチング作成
- 隠れる躯体作成
- 斜線作成

作成条件

- : 作成する
- ×: 作成しない
- △: 仮判断(作成しない)

鳥瞰パース

切断高 軒高 ± 0.0 mm

切断面色 RGB

断面パース

断面色 RGB

作成階 1階 ~ R階

配置図 1面

専用マスク込

専用マスク込

ファイル保存

OK

キャンセル

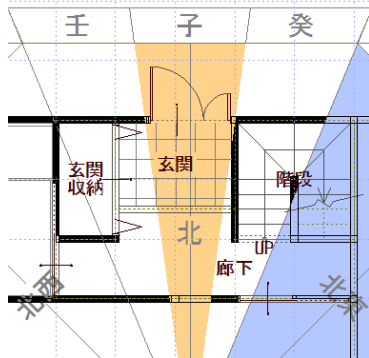
家相方位盤の凶方位を立体データで確認できます。

4 プランの変更例

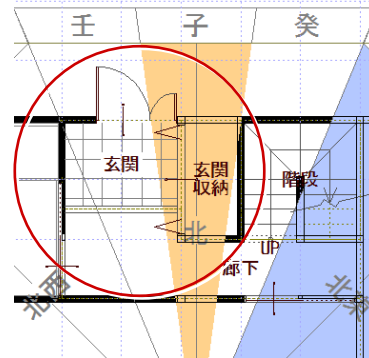
ここではよくある判定結果を例に、プランの変更方法を紹介します。

- 玄関が凶方位にかかる場合 -

家族の干支にあたる十二支方位に玄関がかかる場合は、左右のどちらかに15度ずらすだけで十二支方位を避けることができます。



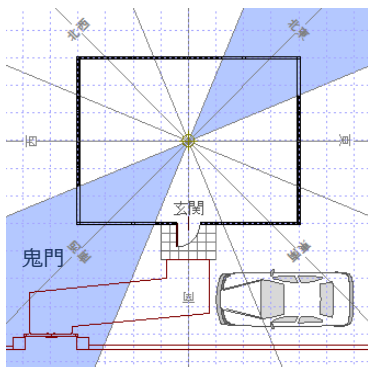
玄関が家族の干支「子」にかかっています。



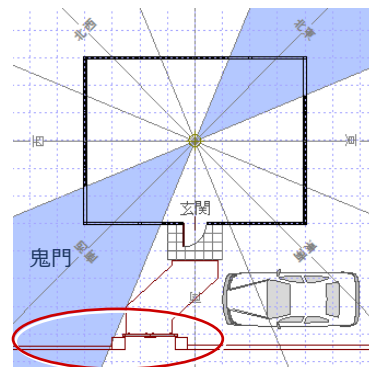
玄関と玄関収納を入れ替えて、凶方位を避けました。

- 門扉が凶方位にある場合 -

門扉も玄関同様に鬼門や家族の干支にあたる十二支方位を避けて配置するようにします。



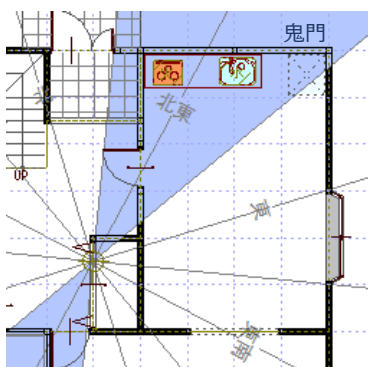
門扉が鬼門あり、凶方位からのアプローチとなっています。



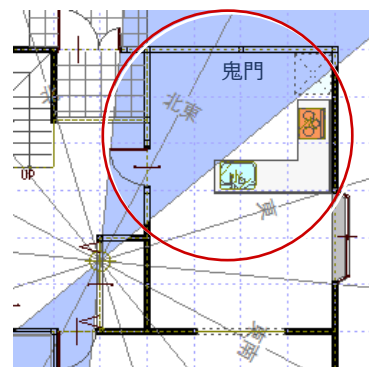
門扉を鬼門からはずしてアプローチするように変更しました。

- システムキッチンが凶方位にかかる場合 -

鬼門や家族の干支にあたる十二支方位にシステムキッチンがかかる場合は、タイプを変更することで無難な方位に移動できる場合があります



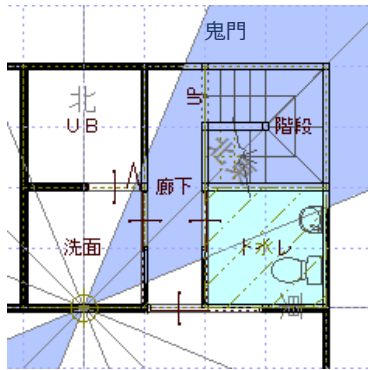
鬼門にガスレンジとシンクが入っています。



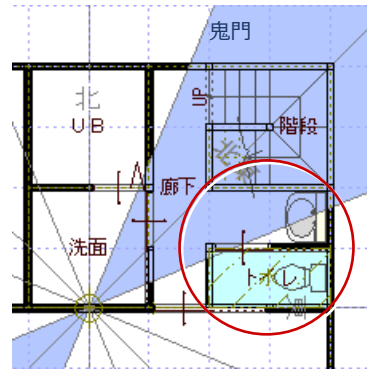
対面式に変更することで、凶方位を避けました。

－ トイレが凶方位にかかる場合 －

鬼門や家族の干支にあたる十二支方位にトイレがかかる場合は、部屋を仕切るなどできるだけコンパクトに納めることで凶方位を避けることができます。



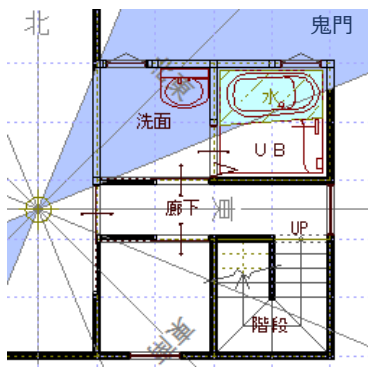
トイレは部屋全体がチェックの対象になります。



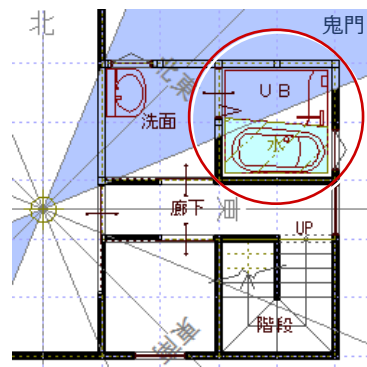
トイレと洗面台を仕切ることで、凶方位を避けました。

－ 浴槽が凶方位にかかる場合 －

鬼門や家族の干支にあたる十二支方位に浴槽がかかる場合は、浴槽と洗い場を入れ替えるか、浴槽の向きを変更することで凶方位を避けることができます。



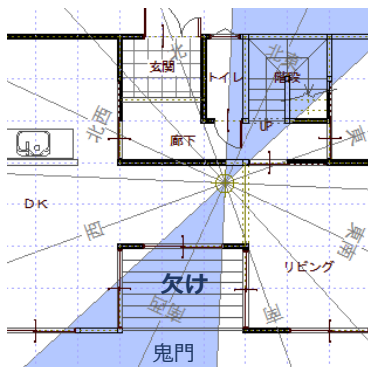
浴槽部分が凶方位にかかっています。



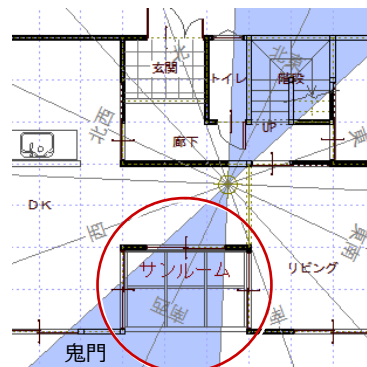
浴槽と洗い場の位置を変えることで、凶方位を避けました。

－ 建物の構えに「欠け」がある場合 －

鬼門や家族の干支にあたる十二支方位に「欠け」がある場合は、サンルームなどを設置することで通風と採光を損なうことなく「欠け」を補うことができます。



DKとリビングの間のデッキ部分が鬼門にかかっています。



小さな「欠け」であれば、市販のサンルームを利用することもできます。